View metadata, citation and similar papers at core.ac.uk
brought to you by CORE
provided by Kansai University Repository

関西大学学術リポジトリ
Kansai University Institutional Repository

瀬戸内海東端に位置する河内平野の考古遺跡などから得られた完新世海水準変動と地形発達史 [論文要旨及び審査の要旨]

著者	別所 秀高
発行年	2019-09-19
学位授与機関	関西大学
学位授与番号	34416乙第512号
URL	http://hdl.handle.net/10112/00018360

［12］

氏　　名	別所（べっしょ）　秀高（ひでたか）
博士の専攻分野の名称	博士（文学）
学　位　記　番　号	博第 512 号
学 位 授 与 の 日 付	2019 年 9 月 19 日
学 位 授 与 の 要 件	学位規則第 4 条第 2 項該当
学　位　論　文　題　目	瀬戸内海東端に位置する河内平野の考古遺跡などから得られた完新世海水準変動と地形発達史
論　文　審　査　委　員	主 査　教　授　木庭　元晴
	副 査　教　授　土屋　純
	副 査　教　授　米田　文孝
	専門審査委員　名誉教授　中田　高（広島大学）

論 文 内 容 の 要 旨

別所秀高は、瀬戸内海東端域について、地下地質や地形分類、氏が関わった発掘現場で得られた試料の考古遺跡放射性炭素年代および考古学的土器年代そして、堆積学的分析を通じて、完新世の海面変動や地形発達過程を検討し、34,000～1900 cal BP の８葉の河内平野古地理図を提示した。河内平野への海進は 10,600 cal BP には確認され、その後の急激な海水準上昇にともなう海岸線のステップ状後退を経て 6500 cal BP には河内湾は最も拡大した。その後、海水準は昇降を繰り返し、海域は拡大あるいは縮小したが、淀川デルタおよび長瀬川デルタの成長とともに 2500 cal BP を境に河内湖として大阪湾とは切り離され、その静水域は拡大したとしている。

論 文 審 査 結 果 の 要 旨

別所秀高の研究成果は、所属機関はもちろん、その他の機関が実施する考古遺跡の発掘調査の機会を鋭敏に捉え、積極的に問題意識を適応しながら、永年積み上げ得られてきたもので、研究手法は確かな水準に達しており、その研究結果は信頼に足ると判断した。完新世海水準変動と地形形成過程を見事に連動しており、この地の完新世の確かな古地理図が提示された。

よって、本論文は博士論文として価値あるものと認める。